



【発信日】平成31年3月1日

【問合わせ先】

大野市役所（1階 11番窓口）

産経建設部幹線道路課道の駅推進室

五十川、飯田

電話 0779-64-4814 内線 1602

大野市重点道の駅「(仮称) 結の故郷」

施設内容をお知らせします

平成33年度（2021年度）早期に開駅予定の重点道の駅「(仮称) 結の故郷」の施設整備計画がまとまりましたので、お知らせします。

また、重点道の駅の指定管理予定者である中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社とも調整を進めてきた結果、福井県内初となるモンベルの出店が決定しましたので、併せてお知らせします。

記

- 1 配布資料
 - ①大野市重点道の駅「(仮称) 結の故郷」施設概要書
 - ②大野市重点道の駅「(仮称) 結の故郷」整備実施設計概要書
 - ③『モンベル』について

大野市重点道の駅「（仮称）結の故郷」 施設概要書



大野市

1. 越前おおのまるごと道の駅ビジョンについて

「生命（いのち）の道」、「生活の道」、「希望の道」である中部縦貫自動車道の福井県内全線開通を見据えて、大野市では、人や歴史・文化、自然環境や食などの大野市が誇る魅力ある地域資源を磨き上げ、大野市全体で「休憩機能」「情報発信機能」及び「地域の連携機能」を提供することにより、市内を回遊したくなる越前おおののイメージを描いた「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」を平成24年7月に策定しました。

中部縦貫自動車道の利用者を市内へ引き込むために「まるごと道の駅」の核となる施設を、重点道の駅（仮称）結の故郷」として整備します。

中部縦貫自動車道の福井県内全線開通による地域経済発展の大きな「チャンス」を最大限生かし、市民の「稼ぐ力」の向上につなげていきます。

2. 大野市重点道の駅全体計画について

「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」の実現に向けて、その拠点となる重点道の駅のコンセプトや導入する機能などを定めた、「大野市重点道の駅全体計画」を平成28年6月に策定しました。

重点道の駅の拠点コンセプトを“人を結び、時を結び、地域を結ぶ「結の心と文化」を肌で感じる「結の故郷越前おおの」と定め、「休憩機能」「情報発信機能」「地域振興機能」だけでなく、福井県の東の玄関口として市内観光を促進するための「観光回遊促進機能」や大規模災害に対応するための「防災機能」を併せ持つ重点道の駅を目指しています。

3. 重点道の駅の中心的な機能について

重点道の駅の中心的な機能（特徴）を下記のとおり位置づけます。

(1) 越前おおのが育んだ食の市場

「大野市道の駅産直の会」の設立による大野市の魅力ある農林産物や地場産品などの直売所への安定的な供給や、大野産食材を使用した飲食コーナーにより、重点道の駅内で、大野市内の多彩な「食」を市民や観光客に提供します。

(2) モンベルと拓くアウトドアの拠点

アウトドア用品の製造・販売やアウトドアイベントの企画運営を行うモンベルが重点道の駅内に福井県内で初出店します。大野市の恵まれた自然をモンベルとともに最大限に活用することで、アウトドアスポーツやレジャーの支援の拠点とします。

(3) 名水と城下町をはじめとする観光案内所

「名水と城下町」に代表されるまちなか観光や豊かな自然があふれる六呂師高原、九頭竜湖周辺などへの回遊性を高める取り組みを行います。

(4) 大規模災害に備える防災拠点

南海トラフ地震などの災害時に、関係機関やメンバーと連携し、被災した地域を支援します。また、大野市が被災した場合は、一時避難所として地域住民を受け入れるほか、他地域からの受援に備える拠点とします。

【名 称】 大野市重点道の駅「(仮称) 結の故郷」

※平成31年度(2019年度)に、公募により決定予定

【所在地】 大野市蕨生137字段子21番1 他

【構 造】 鉄骨造 【階数】1階

【施設面積】 敷地面積 49,137㎡
建物面積 5,082㎡(延床面積)

【施設整備者】 大野市、福井県(道路管理施設)

【指定管理予定者】 中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)

【経過】

平成24年 7月 越前おおのまるごと道の駅ビジョンを策定
平成26年11月 大野市道の駅「結の故郷」基本計画を策定
平成27年 1月 国土交通省の「重点道の駅」に選定
平成28年 6月 大野市重点道の駅「(仮称) 結の故郷」全体計画を策定
平成29年 4月 指定管理予定者に「中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)」を選定
平成30年 2月 事業認定の取得
平成30年 5月 用地取得の完了
平成31年 2月 大野市道の駅産直の会の設立
平成30年度～平成32年度
土木工事、建築工事を実施(予定)
平成33年度(2021年度) 早期
開駅(予定)

【提供する機能（サービス）】

1. 道路管理施設

- (1) 道路利用者などが24時間利用でき、誰もが安心して利用できるトイレや休憩所を設置
- (2) モニターやパンフレットなどによる道路情報や観光情報などの提供

2. 地域振興施設

- (1) 農林産物及び特産品などの販売コーナーの設置
 - ア) 大野市道の駅産直の会による“越前おおの”の農林産物、地場産品などの販売
 - イ) 大野市とゆかりのある市町村の特産品の販売
 - ウ) 県内市町などの特産品の販売
- (2) 観光案内所の設置による、市内を中心とした観光案内や観光ツアーの紹介
- (3) 子どもたちが楽しく遊ぶことができるキッズコーナーの設置
- (4) 大野産米粉を使用したバウムクーヘンの販売
- (5) 大野産食材などを使用した飲食コーナーの設置
- (6) 新規事業者を支援するためのチャレンジショップの設置
- (7) 「そば打ち体験」「郷土料理教室」といった文化伝承の学習・体験

3. 地方創生施設（モンベル店舗）

- (1) アウトドア用品などの販売及びカヌー体験やクライミング体験、登山用具・自転車のレンタル
- (2) カフェやベーカリーなどの設置

4. 屋外交流広場

- (1) 屋根付きの半屋外空間として、休憩場所やイベント会場としての利用

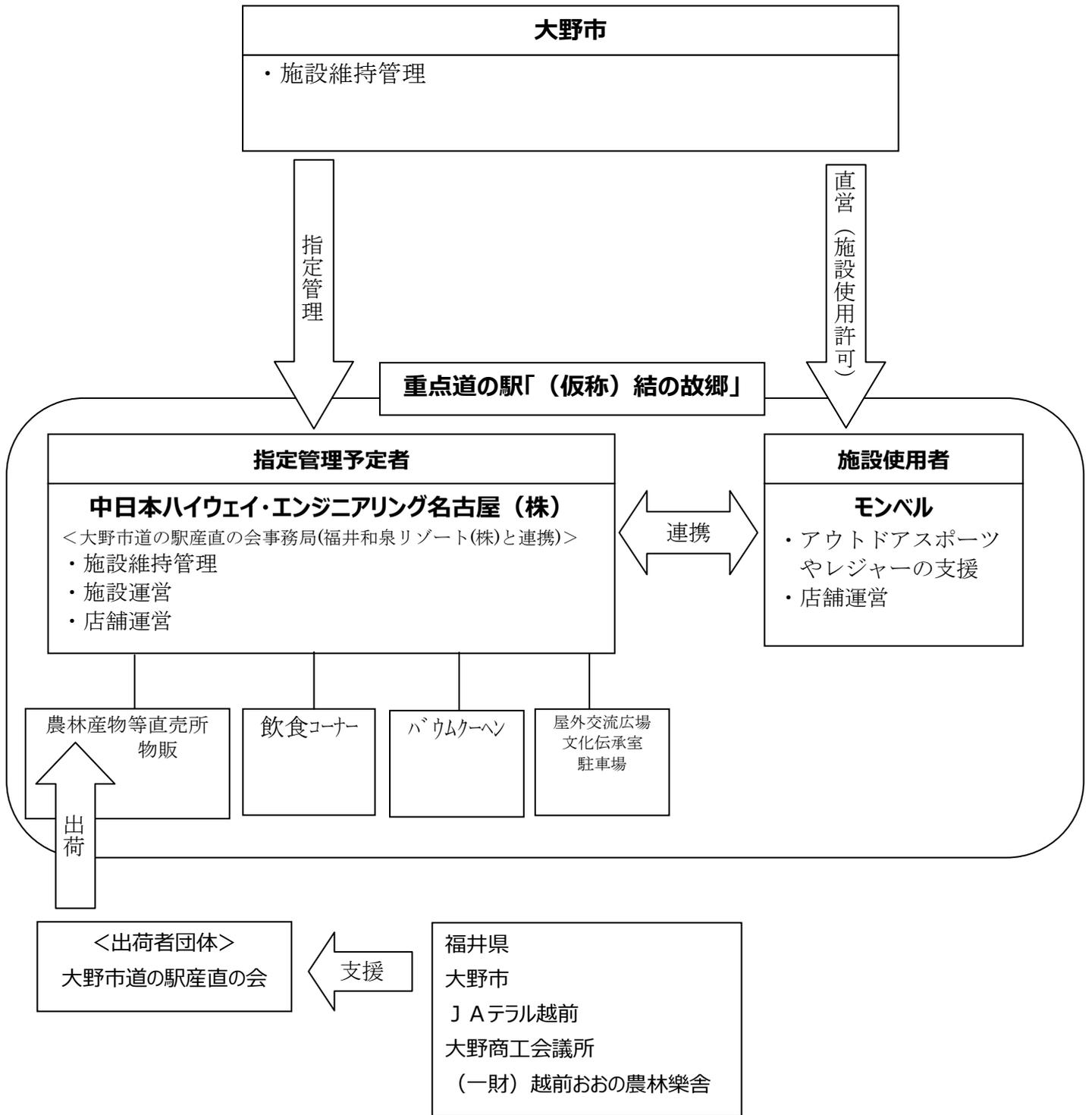
5. 災害時の防災拠点

- (1) ヘリコプター場外離発着場の設置
- (2) 自家発電設備や備蓄倉庫の設置

6. その他

- (1) 国内最大級のキャンピングカーユーザー向けRVパークの設置
- (2) 市営バスや高速バスの停留所の設置 ※高速バスの誘致に向けて現在交渉中

【運営体制】



大野市重点道の駅「(仮称) 結の故郷」整備

実施設計概要書



目 次	
1	設計の諸元 1
2	施設配置計画 2
3	設計方針 3
4	建築計画
4__1	平面計画 4
4__2	断面計画 5
4__3	立面計画 6
5	道路管理施設
5__1	道路情報コーナー 7
5__2	トイレ計画 8
6	防災支援・受援計画 9

1 設計の諸元

(1) 建築概要・建物面積表・位置図

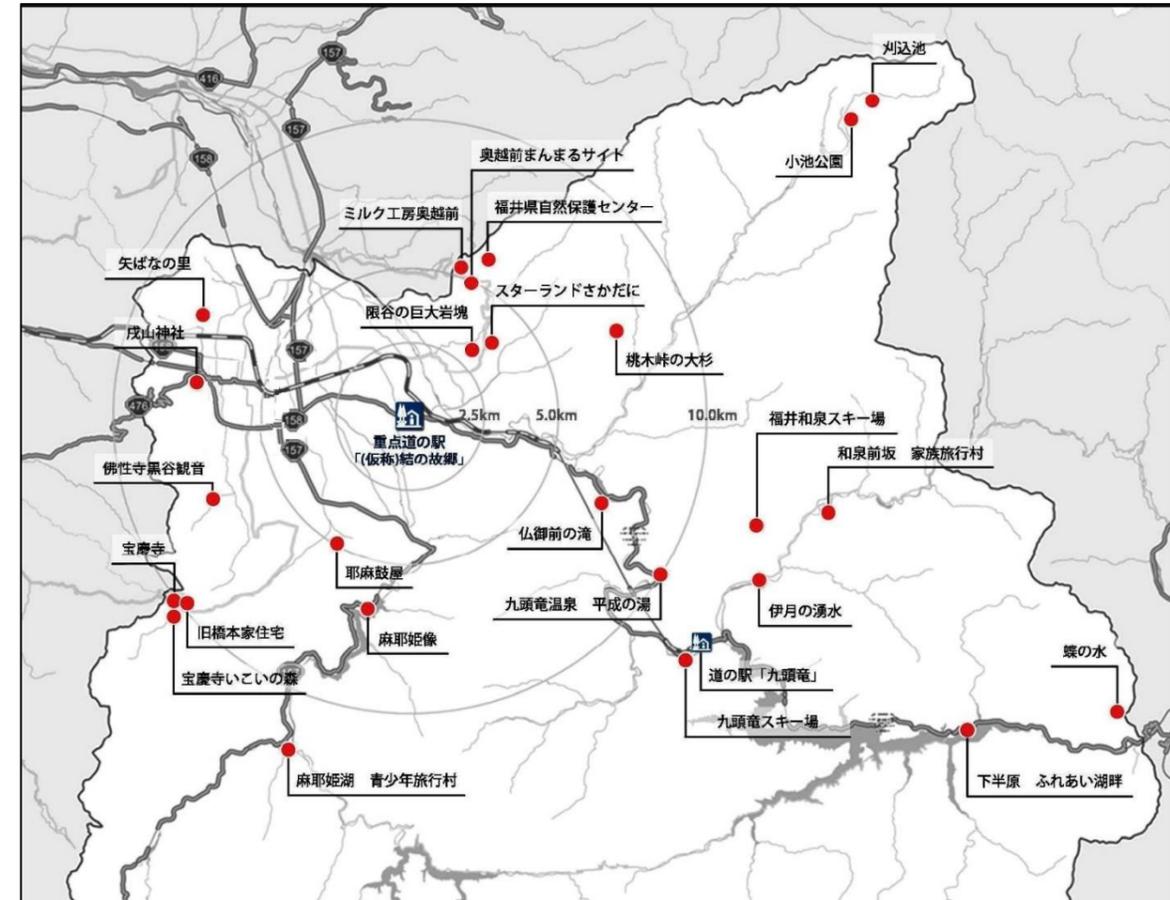
1 建築概要

主要用途	商業施設、公衆用トイレ
構造	鉄骨造
建築面積	5,526 m ²
延床面積	5,082 m ²
階数	1階
最高高さ	8.2m
法定建ぺい率	70%
法定容積率	200%
用途地域	指定なし
高度地区	指定なし
防火地域	指定なし
その他地域地区	角地緩和により建ぺい率プラス10%
建築費	2,135 百万円

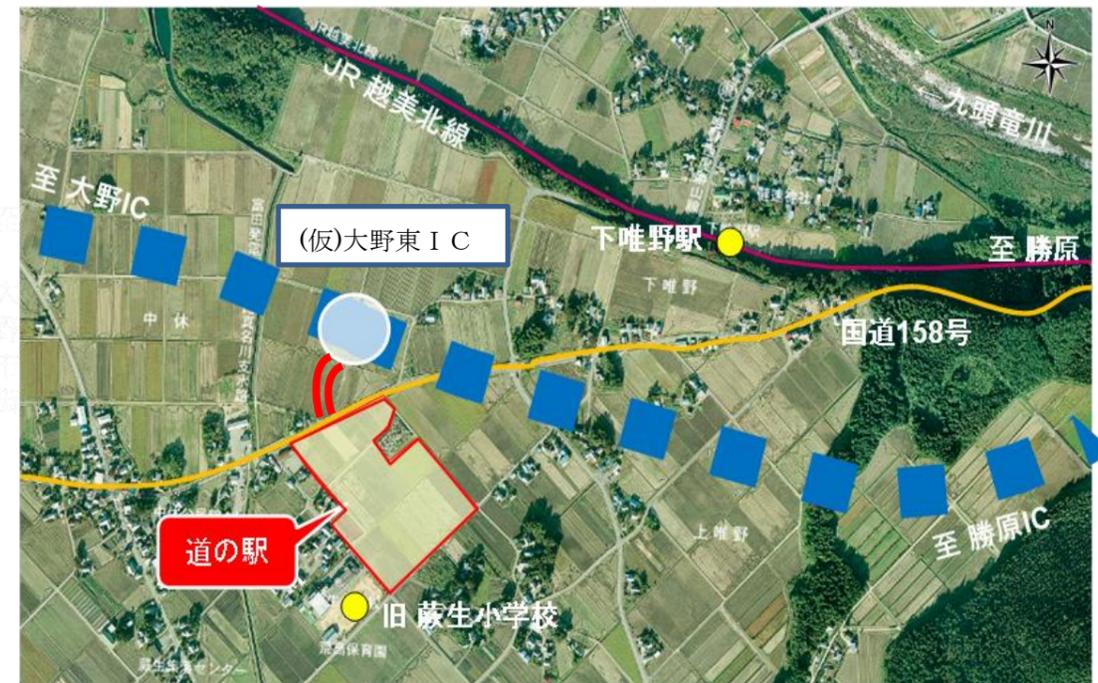
2 建物面積表

施設名	延床面積
道路管理施設	297 m ²
道の駅	4,785 m ²
地域振興施設	1,965 m ²
地方創生施設	1,258 m ²
屋外交流広場	418 m ²
その他、付帯施設	1,144 m ²
合計	5,082 m ²

3 広域位置図



4 位置図



2 施設配置計画

(1) 建物の配置について

福井県の東の玄関口となり、地域外から大野市へ人を呼び込む「ゲートウェイ」としての機能を持たせるため、国道158号から乗り入れ時に建物が正面に視認でき、隣接する旧蕨生小学校施設との連携した取り組みが可能となるよう敷地の南側に配置します。

(2) 駐車場の配置について

駐車場は、施設利用者の安全性を確保するため、小型車と大型車の動線が交差しないよう、大型車駐車場は北側（入口側）に、小型車駐車場は南側（建物側）に配置します。また、建物の近くにハートフル駐車場と自動二輪駐車場を設置します。

(3) 来館者のアプローチについて

ハートフル駐車場を設置し、障害者や高齢者などすべての人を駐車場から建物へ安全に誘導するため、建物正面の中央にメインアプローチとなる通路を設けます。メイン出入口では、庇に加え、前に屋根付き通路を設け、来館者が雨に濡れないよう建物へと誘導します。

(4) バス停留所について

来訪者を市内観光への誘客につなげるため、駐車場内に市営バスや高速バスの停留所を設けます。

(5) RVパークについて

道の駅敷地に入る北側には、国内最大級となるキャンピングカーユーザー向けのRVパークを整備するとともに、道の駅の顔となる緑地帯を配置します。

(6) 電気自動車の急速充電設備について

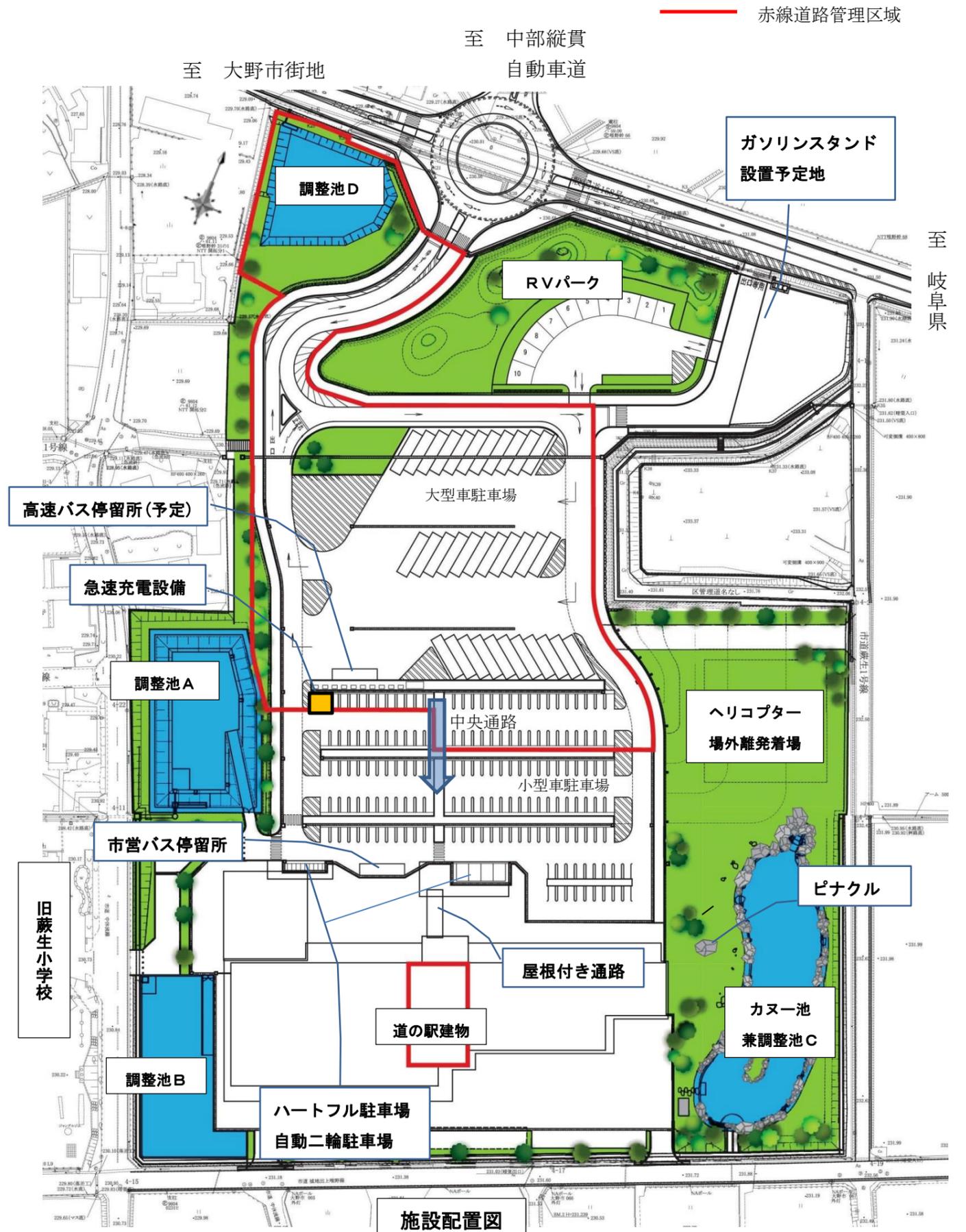
電気自動車用の急速充電設備を2基設置します。

(7) ピナクルについて

クライミングが体験できる施設を設置します。

敷地概要

建築地	福井県 大野市 蕨生地係
敷地面積	49,137 m ² ・市整備面積 35,849 m ² ・県整備面積 13,288 m ²
駐車台数	・小型車 169 台 ・大型車 33 台 ・ハートフル 4 台 ・自動二輪 10 台



3 設計方針

道の駅中心的機能

- 1 越前おおのが育んだ食の市場
- 2 モンベルと拓くアウトドアの拠点
- 3 名水と城下町をはじめとする観光案内所
- 4 大規模災害に備える広域防災拠点

上記中心的機能にユニバーサルデザインを加え、施設を充実させるため次の方針を定めます。

方針1 「越前おおの」の食文化を満喫できる道の駅

- ① 買い物客が、楽しくゆったりと買い物ができるように天井を高くし、光を取り入れ、明るく多様な販売レイアウトが可能な大空間とします。
- ② たくさんの食が味わえるよう、飲食コーナーには、多彩な飲食店を揃えます。

方針2 豊かな自然が体感できる道の駅

- ① モンベル店舗は、建物の外観を山小屋風にします。
- ② 冬季は、火のぬくもりを感じることができる薪ストーブを設置します。
- ③ 屋外にクライミングが体験できるピナクルを設置します。

※



外観パース

方針3 来館者をやさしく案内する道の駅

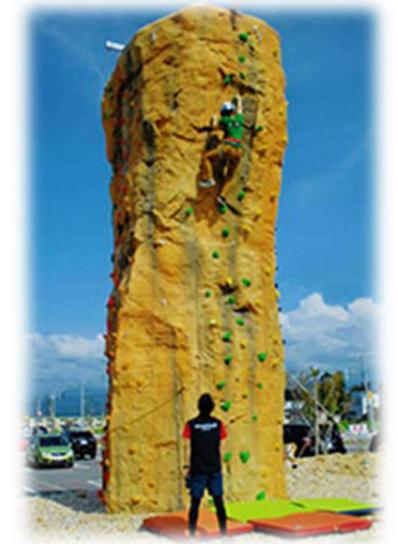
- ① 来訪者をまちなかや郊外の観光スポットへ誘導する案内カウンターを設置します。
- ② 豊かな水環境をPRするため、川魚が泳ぐ水槽を設置します。
- ③ 四季折々の観光情報を提供するため、販売コーナーには、デジタルサイネージを、道路情報コーナーにはモニターを設置します。

方針4 大規模災害に備える道の駅

- ① 大規模な災害を想定し、自家発電設備や備蓄倉庫を設置します。

方針5 すべての人が使いやすい道の駅

- ① ユニバーサルデザインを取り入れ、駐車場や通路、トイレなどは、高齢者や障害者などすべての人が使いやすい施設とします。

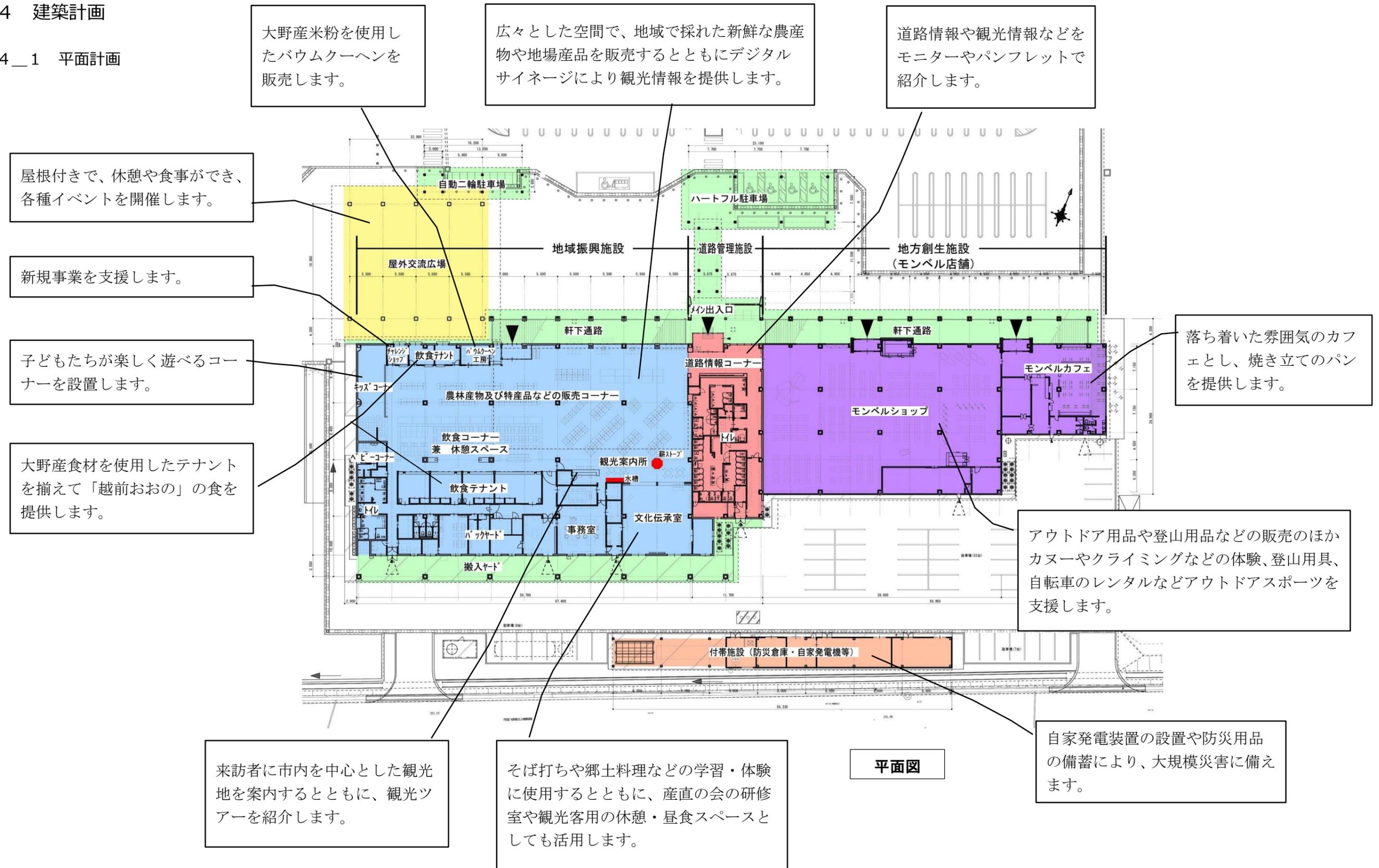


ピナクル写真

※ ピナクル
クライミングができるよう人工的に造られた岩搭

4 建築計画

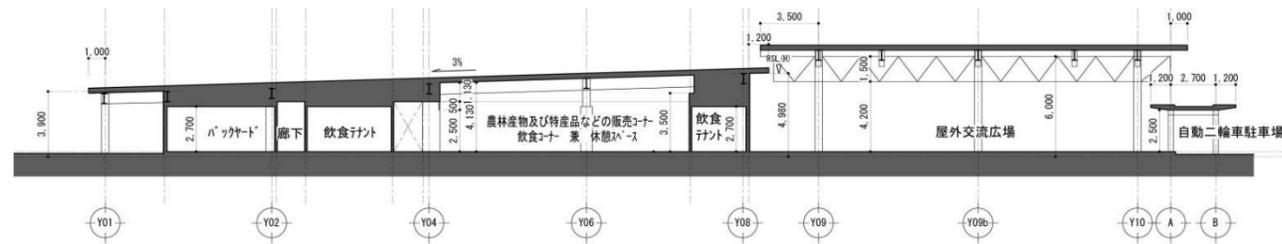
4_1 平面計画



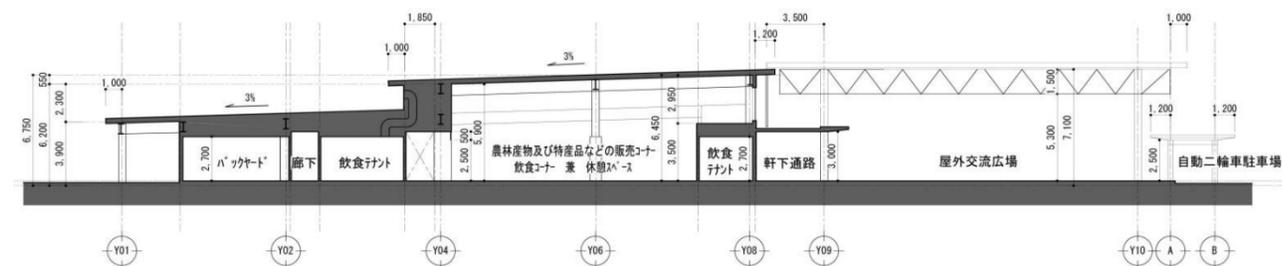
4_2 断面計画

- ① 農林産物及び特産品などの販売コーナー部分（B-B'断面図）は、北側上部に大きな窓を設け、一年を通して自然の光を取り込む明るい空間とします。また、天井を高くし、飲食及び販売コーナー部分（A-A'断面図）と合わせて開放的な大空間とすることで賑わいを創出し、購買活動を活発にします。
- ② 建物中央に位置する道路管理施設部分へとつながるメインの出入口（C-C'断面図）には、屋根付き通路を設置し、来館者が雨や雪の日も濡れずに出入りできるようにします。

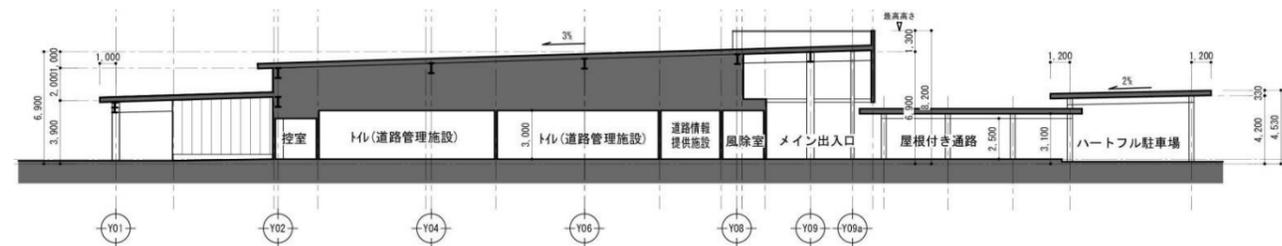
- ③ モンベルショップ（D-D'断面図）においても、天井を高くし、多様なレイアウトを可能とした大空間とします。
- ④ 屋根は、北から南への緩やかな片流れとし、雪止めを設け落雪がないようにします。



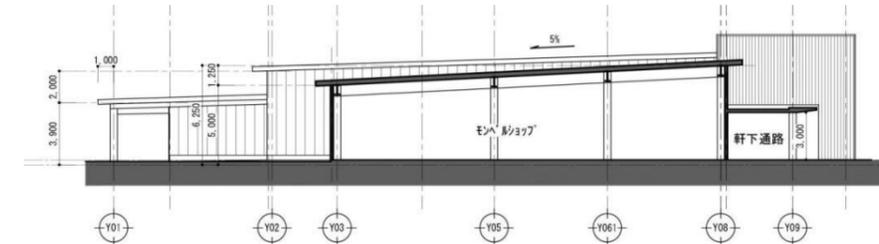
A-A' 断面図



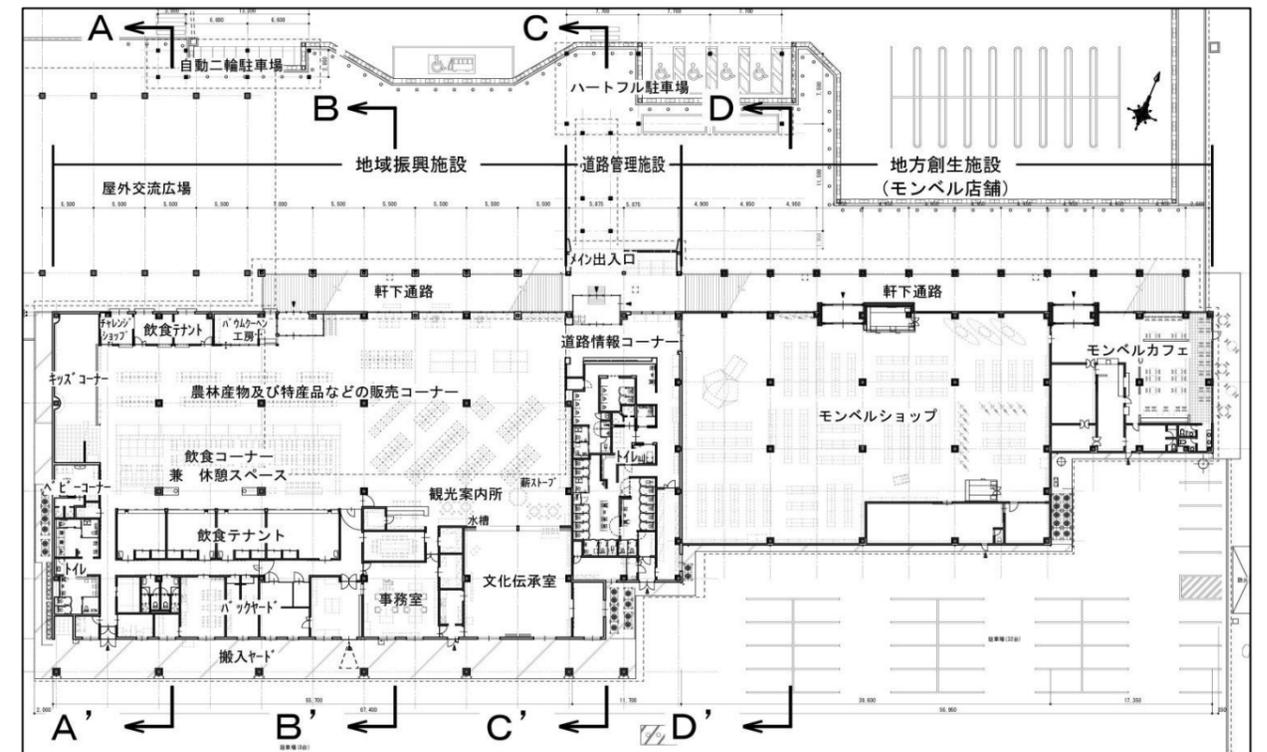
B-B' 断面図



C-C' 断面図



D-D' 断面図



断面位置図

4_3 立面計画

(1) 北側立面図(建物正面)

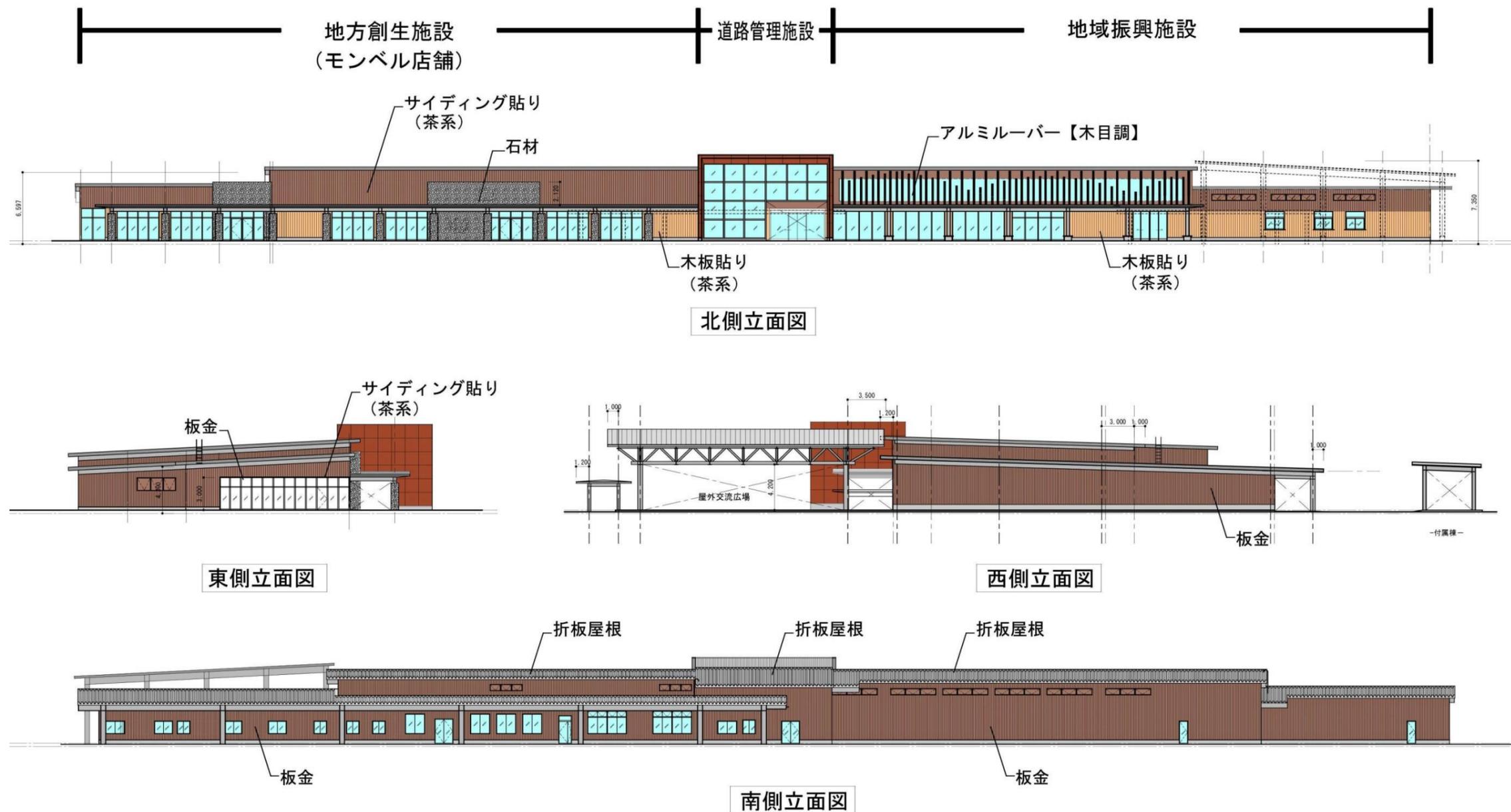
- ① 底より下の外壁は、木板貼りを採用し、外部から建物内部の様子がわかるようガラス部分(図面水色部分)を多くします。
- ② モンベル店舗部分は、外壁の一部や柱に石材を使用し、アウトドアをイメージした山小屋風のデザインとします。
- ③ 地域振興施設の外壁には、山並みをデザインした木目調のアルミルーバー(縦の格子)を設置します。

(2) 東側・西側・南側立面図

- ① 外壁には、工事費及び維持管理などのコストを軽減するため、板金やサイディング(一般外壁材)を使用します。

(3) 西側立面図

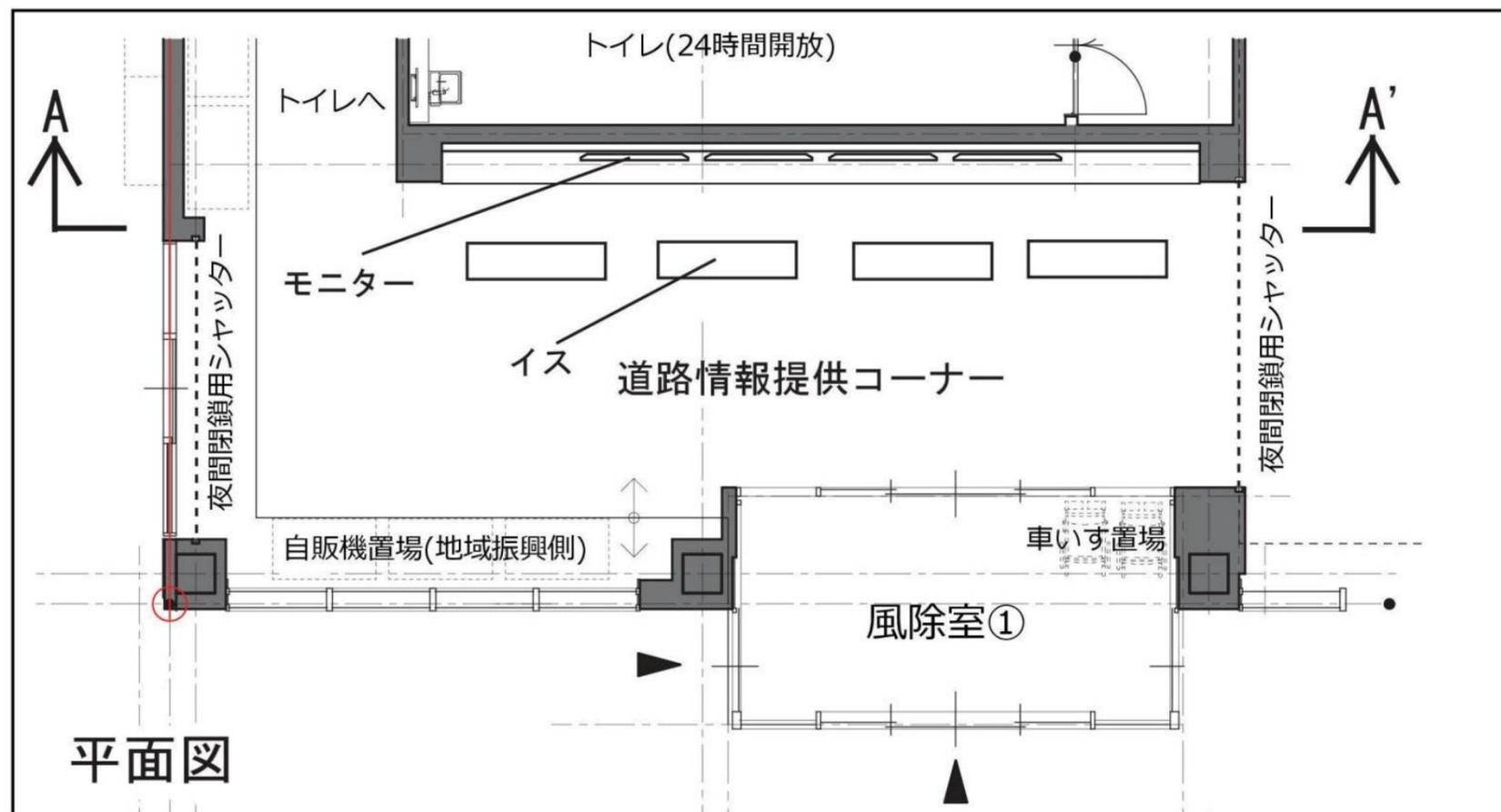
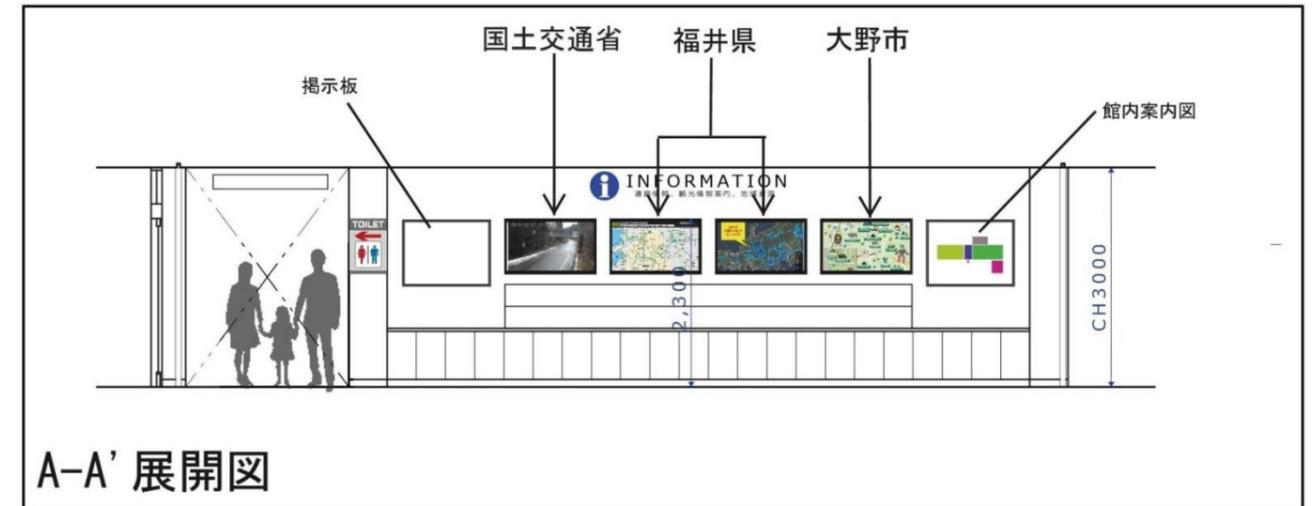
- ① 屋外交流広場は、災害時の物資集積場所となることから、大型車が余裕をもって通れる高さを確保します。



5 道路管理施設

5_1 道路情報コーナー

- ① 道の駅のメイン入口から入った正面に国・県・市のそれぞれがモニターを設置し、道路交通情報や天気予報、災害情報、観光情報などを、分かりやすく、リアルタイムで提供します。



5_2 トイレ計画

- ① 多くの道路利用者に道の駅を利用していただけるよう24時間利用可能で衛生的なトイレを整備します。清潔なトイレを保つため、ドアやバリケードで分割し清掃ができるようにします。
- ② 健常者だけでなく体の不自由な人や高齢者などが誰でも利用できる多目的トイレを設置します。
- ③ 多目的トイレには、荒島岳の登山客などが着替えに使えるフィッティングルームとしての機能も付加します。
- ④ 男女それぞれのトイレに大型ブースを設け、多目的用途に使用できるようにします。
- ⑤ 子育て応援のため、24時間利用可能な授乳室やおむつ替えコーナーの他に、男女それぞれのトイレ内に幼児用トイレやベビーチェアを設けます。
- ⑥ 女子トイレには化粧直しができるパウダールームを設けます。

(1) 一般用トイレに設置するもの

- | | |
|------------------|-----------------|
| a 小便器用に傘や杖用のフック | b 大便器ブースに荷物置き用台 |
| c 大便器ブース内にベビーチェア | d 幼児用トイレ |
| e ベビーチェア | |

(2) 多目的トイレに設置するもの

- | | |
|-------------|---------------|
| f 手すり | g オストメイト用汚物流し |
| h ユニバーサルベッド | i フィッティングボード |



d 幼児用トイレ

e ベビーチェア

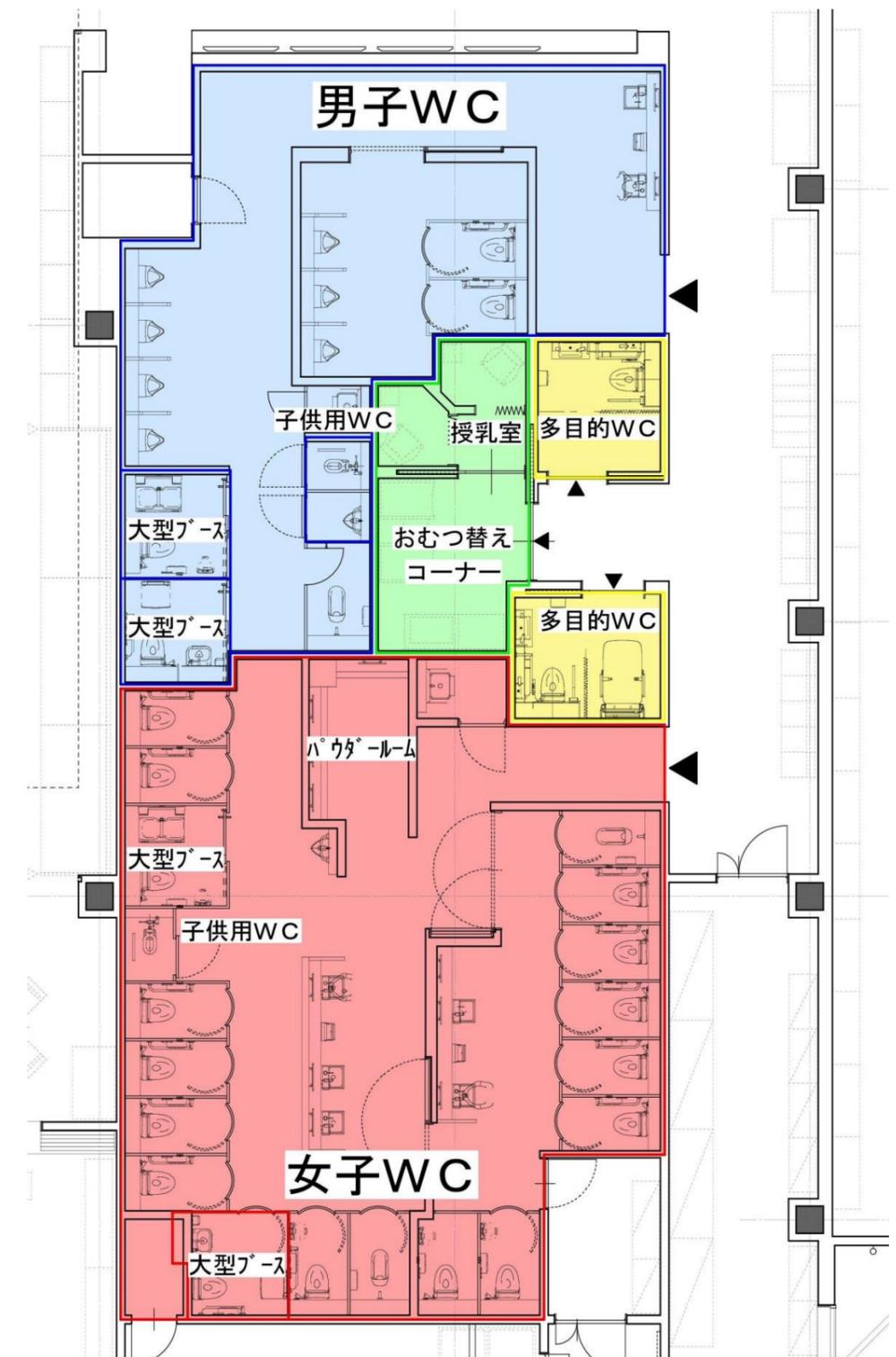
g オストメイト用汚物流し



h ユニバーサルベッド



i フィッティングボード



道路管理施設トイレ図

6 防災支援・受援計画

(1) 災害時の施設利用

「近畿圏・中部圏・首都圏」において、大規模災害が発生した場合には、被災した地域を後方支援するため、被災地から避難者を受け入れる避難所や応急対策に必要な現地対策本部などを設置します。

大野市が被災した場合には、地域住民を受け入れるため一時避難所を設置するとともに、他地域からの受援施設として活用します。



(2) 電気の供給

災害時に広域的に停電となっても自家発電設備から、72時間分の必要な電気を供給します。

(3) 防災備蓄倉庫

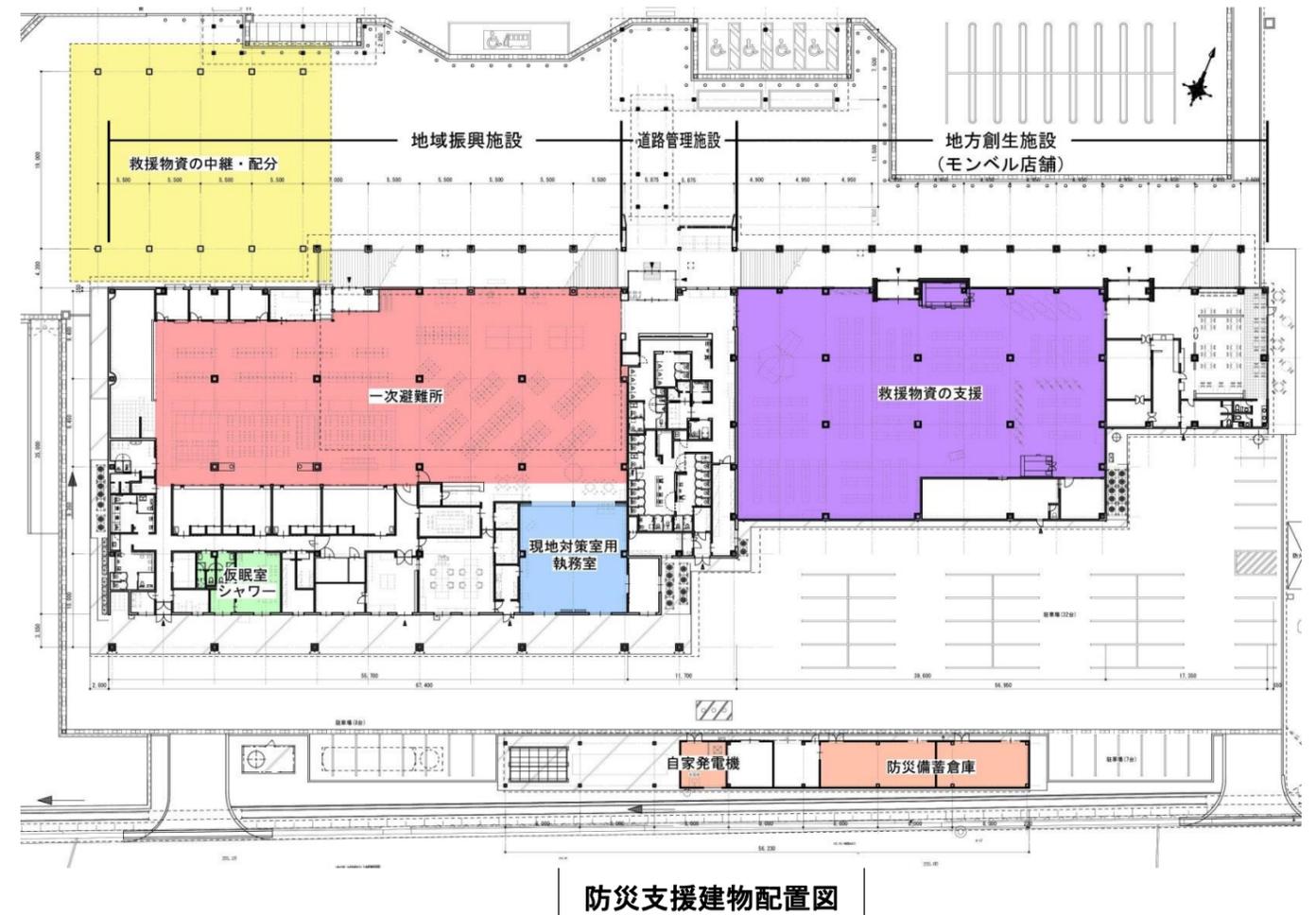
被災地からの避難者に提供する食料や毛布を備蓄します。

(4) 屋外交流広場

全国各地から集まってくる救援物資を集積し、仕分けして、被災地へと輸送できるよう大型トラックが乗り入れ可能となる高さを確保します。

(5) ヘリコプター場外離発着場

災害時に人命救助や物資輸送に利用できる場外離発着場のスペースを設けます。



『モンベル』について

- モンベルグループは、株式会社モンベル、株式会社ベルカディア、株式会社北陸モンベル、株式会社ネイチュアエンタープライズ、モンベルアメリカ・インク、モンベルスイス SA から成る、アウトドア用品の製造、卸、販売、イベント運営企画、保険業などを手がける総合グループである。
- モンベル代表取締役会長である辰野 勇氏が、1975年に創業。
- グループ年商は約 750 億円（2017 年度）
- 従業員数は 970 名（男性 660 名、女性 310 名）
- モンベルストア（店舗）は全国で 129 店舗（平成 30 年 12 月末現在）
- モンベルクラブ会員数 約 90 万人（平成 31 年 1 月末現在）
- 市町村、島など地域ぐるみで会員をサポートするフレンドエリアは全国に 88（平成 30 年 12 月末現在）（大野市は平成 28 年 11 月 1 日に登録）あり、会報誌等を通じて観光情報等を発信。
- アウトドア用品の企画・製造・販売の領域を越えて、さまざまな分野にその活動範囲を広げている。（自然環境保全への啓蒙、野外体験を通じた生きる力の育成、健康長寿の増進、災害への対応力、エコツーリズムによる地域経済の活性化、農林水産業、第一次産業への支援、バリアフリー）
- 阪神淡路大震災を契機に発足したボランティア集団「アウトドア義援隊」による災害支援などの社会活動も展開。
- アウトドアを基軸とした新たな取り組みとして地方自治体や、企業、大学と「包括連携協定」を締結。（平成 30 年 11 月 3 日現在、47 カ所）

【大野市とモンベルの関係】

平成 28 年 6 月 「フレンドタウンパートナーズシップ」を締結

平成 29 年 2 月 「地方創生に向けた相互連携・協力に関する協定」を締結

【連携・協力事項】

1. 自然体験の促進による環境保全意識の醸成に関すること
2. 子どもたちの生き抜く力の育成に関すること
3. 自然体験を生かした健康増進に関すること
4. 防災意識と災害対応力の向上に関すること
5. エコツーリズムの促進による地域経済の活性化に関すること
6. 農林水産業の活性化に関すること
7. 豊かな自然の魅力発信に関すること
8. 前各号に掲げるもののほか、交流人口の拡大のため、相互に連携協力することが必要と認められる事項